

大切な人に想いをこめて、たったひとつの漢字を贈る 第3回『今、あなたに贈りたい漢字 コンテスト』募集開始

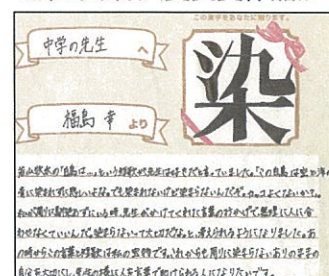
審査員に 橋本五郎さん、ゴルゴ松本さん、やすみりえさん、華雪さん
応募期間：2015年7月10日（金）～10月13日（火）

公益財団法人 日本漢字能力検定協会（本部：京都市下京区／代表理事理事長：久保浩史）は、日常生活の中で、家族や友達、先生など、大切な人たちに漢字一文字とメッセージを贈る「今、あなたに贈りたい漢字 コンテスト」を3年連続で実施し、10月13日（火）まで作品を募集いたします。

これまでの本コンテストでは、第1回に合計29,042作品、第2回に合計40,045作品が集まりました。ふだん、あまり言葉にすることがない家族や恩師への感謝・尊敬の想いをこめた作品や、ともに学んだ友人への励ましや恋心を表現した作品など、優れた作品が数多く寄せられました。また第2回では海外の方の受賞もありました。

弊協会では、東日本大震災以降、社会全体で「絆」に対する意識が高まっている中で、これをより長期的に続く世の中の流れとすべく、本コンテストを開催しております。「絆」を大切にする社会を実現するために、表意文字である漢字に想いをこめて、大切な人にメッセージを贈ることによって、贈る側、贈られる側が互いのつながりを感じあえる機会となるよう願っております。

《第2回 絆大賞受賞作品》



【コンテスト概要】

コンテスト名：第3回「今、あなたに贈りたい漢字 コンテスト」

応募期間：2015年7月10日（金）～10月13日（火）

発表：2016年1月下旬 ※弊協会ホームページなどで発表予定

応募部門：①家族部門 ②夫婦・恋人部門 ③友人・恩人部門 ④自分部門

応募方法：①コンテストサイト (<http://www.kanken-kizuna.jp/>) から応募

②所定の応募用紙（ウェブサイトからダウンロード可）で郵送

応募テーマ：「大切な人に贈りたい漢字とメッセージ」（漢字は一文字、メッセージは150字程度）

審査：日本漢字能力検定協会および審査員長・審査員が、本コンテストの開催趣旨に照らし、漢字一文字とメッセージを合わせて総合的に審査します。

審査員：
（敬称略）



審査員長 橋本五郎
（読売新聞特別編集委員）



ゴルゴ松本
（お笑い芸人）



やすみりえ
（川柳作家）



華雪
（書家）

表彰：絆大賞（4点）

賞状・副賞5万円相当

日本漢字能力検定協会賞（4点）

賞状・副賞3万円相当

審査員特別賞（8点）

賞状・副賞1万円相当

ペア応募特別賞（5組10点）

賞状・副賞一人6千円相当

佳作（60点）

賞状・副賞5千円相当

《本件に関する報道関係の方々のお問い合わせ先》

日本語・漢字を学ぶ楽しさを提供し、豊かな社会の実現に貢献します。

公益財団法人 日本漢字能力検定協会 <http://www.kanken.or.jp/>

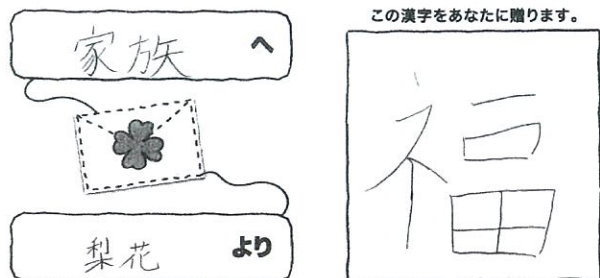
PR担当：時田（普及部 普及企画チーム）

TEL：03-6385-8740（固定）090-2109-9089（携帯）MAIL：n-tokita@kanken.or.jp（PC）

第2回「今、あなたに贈りたい漢字 コンテスト」 絆大賞 受賞作品

『福』（奈良県・生駒市立あすか野小学校5年（当時）／松本梨花さん／女性）

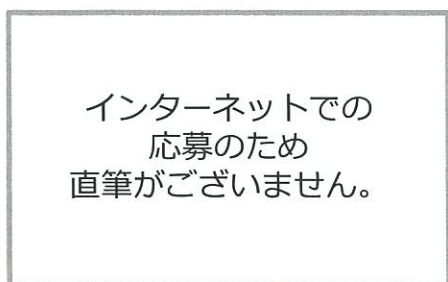
贈り主：梨花 ⇒ 贈る相手：家族



私の父と母は、働いていて、なかなか家族がそろいません。そろった時、必ず笑います。とても幸せなんです。「笑う門には福来たる」そう言うでしょ。その時、いつも福が来てるんだよ。ねっ！いつも家事や仕事をがんばっている母・父。いつも笑わせてくれる弟。ありがとう。そういうやさしい家族だからこそ、「福」という見てうれしくなる漢字を贈ります。

『太』（東京都・東京学芸大学附属小金井中学校2年（当時）／中山慎太郎さん／男性）

贈り主：慎太郎 ⇒ 贈る相手：お母さん



太りすぎをいつも気にしているお母さん。お母さんは「太」っていう文字に拒否反応を起こすかもしれないし、下手をすると怒っちゃうかもしれないけれど、僕は僕の名前の一字にもなっているこの字がとっても好きなんだ。大きくて、なんだかどっしりとした温かみを感じるこの字は、お母さんのイメージにぴったりだと思う。だからさお母さん、無駄なダイエットはもう諦めたら？僕は「太」いお母さんで構わないよ。

『染』（東京都・東京都立大森高等学校1年（当時）／福島幸さん／女性）

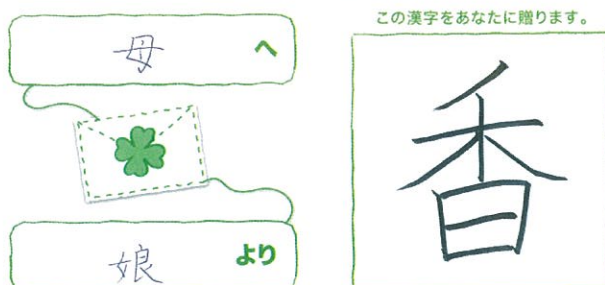
贈り主：福島幸 ⇒ 贈る相手：中学の先生



若山牧水の「白鳥は・・・」という短歌が先生は好きだと言っていました。「この白鳥は空と海の青に染まれずに悲しいよな。でも染まれないけど染まらないんだぞ。カッコよくないか?」。私が周りに馴染めずにいる時、先生がかけてくれた言葉のおかげで、無理に人に合わせなくてもいいんだ。染まらないって大切なな。と、考えられるようになりました。あの時からこの言葉と短歌は私の宝物です。これからも周りに染まらないありのままの自分を大切に、先生のように人を言葉で助けられる人になりたいです。

『香』（東京都・主婦 44歳（当時）／永山希美代さん／女性）

贈り主：娘 ⇒ 贈る相手：母



私は、あなたの香りが大好きです。土に生き、農業一筋でまっ黒に日焼けしながら、私を育ててくれた母。化粧の香りは無縁のあなたに、十代の頃の私は、恥ずかしさでつらく当たってしまった事も……。けれど今、とても懐しく、時には力強く、あなたの香りを思い出すたび、勇気をもらっています。私もあなたのように心の香りを我が子に残せる母親になりたいです。